



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月14日

上場会社名 エフビー介護サービス株式会社 上場取引所 東
コード番号 9220 URL <https://fb-kaigo.co.jp/>
代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳澤 美穂
問合せ先責任者(役職名) 経理財務部長 (氏名) 二之宮 修 (TEL) 0267(88)8188
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	7,754	7.9	549	4.9	626	15.2	406	27.7
2023年3月期第3四半期	7,186	4.2	524	7.9	543	11.4	318	△19.4

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 413百万円(28.5%) 2023年3月期第3四半期 321百万円(△18.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	152.07	—
2023年3月期第3四半期	120.17	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	8,995	3,362	37.4
2023年3月期	9,019	3,037	33.7

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 3,362百万円 2023年3月期 3,037百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	13.00	—	20.00	33.00
2024年3月期	—	13.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	20.00	33.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,449	8.6	552	1.4	642	△12.9	401	△9.8	149.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年3月期3Q	2,676,000株	2023年3月期	2,676,000株
2024年3月期3Q	—株	2023年3月期	—株
2024年3月期3Q	2,676,000株	2023年3月期3Q	2,652,225株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の第5類感染症への移行後、経済社会活動の正常化が進みましたが、ロシアウクライナ戦争の長期化や円安の常態化が懸念され、企業の価格転嫁が進んだ一方で賃金の上昇が物価の上昇率に追いつかない等、個人消費の回復にも不透明感が広がっています。

介護業界におきましては、高齢化率の上昇とともに、介護サービスの需要が高まっているものの、従来から課題となっている人材の確保の他、資源・エネルギー及び食料品価格の高止まりの状況が続き、厳しさが増しております。

このような状況の下、当社グループはコロナ禍で停止していた外国人入国の制限が撤廃され、技能実習生や特定技能外国人の受け入れを進め、介護人材の確保を図りました。また、引き続き政府による福祉・介護職員の処遇改善を目的とした補助金制度を活用して加算報酬要件を満たす取り組みを実施しました。

また、4月から年間休日を108日から120日に増やして従業員の処遇改善を行って人材確保と従業員の士気向上を図り、介護現場でのDX推進を含めた生産性の向上に努めると共に介護事業で従業員の給与体系の見直しを行いました。

さらには、2023年7月に子会社化したスマートケアタウン株式会社との統合を図り、既存事業所との相乗効果等により連結決算ベースで四半期純利益の黒字化を達成いたしました。当社グループに業績が反映される当第3四半期連結会計期間より当社グループの連結業績に貢献しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,754百万円（前年同期比7.9%増）、営業利益は549百万円（前年同期比4.9%増）、経常利益は626百万円（前年同期比15.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は406百万円（前年同期比27.7%増）となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当社は経営上の管理区分の見直しを行ったことに伴い、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、居宅介護支援を「福祉用具事業」から「介護事業」へ移管しております。前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分にて組み替えた数値で比較をしております。

(福祉用具事業)

福祉用具事業においては、キャンペーン等の実施によりケアマネジャーや介護施設、病院への訪問活動や地域に根ざしたきめ細やかなお客様への訪問を進め、前期に開設した小山営業所(栃木県)においても営業の強化に努め増収となりました。

また、利益については売上高が順調に推移しているため、今後の営業に備えてレンタル商品として介護用電動ベッド等の仕入を増加させ、ほぼ横ばいで推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の福祉用具事業の売上高は3,267百万円（前年同期比6.6%増）、セグメント利益は289百万円（前年同期比0.1%減）となりました。

(介護事業)

介護事業においては、2023年3月に開設した4事業所において利用者様の入居・登録数が順調に推移し、2022年11月及び2023年7月にそれぞれ子会社化した株式会社シルバーアシストとスマートケアタウン株式会社の業績も順調に推移していることから増収となりました。

利益面では全体的に食材費や光熱費等のコストの高止まり状態が続き、新設した4事業所の初期投資もありましたが、子会社の利益貢献、全社的に経費の削減やDX推進を含めた業務の効率化に努め、増益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の介護事業の売上高は4,486百万円（前年同期比8.9%増）、セグメント利益は259百万円（前年同期比11.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

財政状態は次のとおりであります。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ23百万円減少し、8,995百万円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ154百万円減少し、3,964百万円となりました。主な要因は、現金及び預金237百万円の減少によるものであります。固定資産は前連結会計年度末に比べ133百万円増加し、5,027百万円となりました。主な要因は、その他(純額)に含まれる建設仮勘定の増加282百万円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ348百万円減少し、5,633百万円となりました。流動負債は前連結会計年度末に比べ130百万円減少し、2,558百万円となりました。主な要因は、賞与引当金の減少200百万円、未払法人税等の減少97百万円によるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ217百万円減少し、3,074百万円となりました。主な要因は、長期借入金の減少302百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ325百万円増加し、3,362百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益406百万円の計上等に伴い利益剰余金が増加しております。自己資本比率は前連結会計年度末の33.7%から3.7ポイント増加し37.4%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績は順調に推移しており、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって、これら予想数値と異なる可能性があります。

2024年3月期通期の連結業績予想につきましては、2023年5月15日公表の予想数値から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,366,322	2,128,388
売掛金	1,436,891	1,527,389
商品	10,606	11,967
貯蔵品	14,856	15,927
その他	290,127	280,830
貸倒引当金	△69	△86
流動資産合計	4,118,734	3,964,417
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,686,312	3,532,550
その他（純額）	573,109	831,423
有形固定資産合計	4,259,421	4,363,973
無形固定資産		
のれん	74,511	80,229
その他	35,374	77,679
無形固定資産合計	109,886	157,908
投資その他の資産	524,470	505,183
固定資産合計	4,893,778	5,027,064
繰延資産		
株式交付費	6,542	4,100
その他	-	335
繰延資産合計	6,542	4,435
資産合計	9,019,056	8,995,917

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	175,259	186,828
短期借入金	700,000	706,000
1年内返済予定の長期借入金	437,970	414,138
未払法人税等	212,252	114,358
賞与引当金	344,290	143,436
その他	819,718	993,768
流動負債合計	2,689,490	2,558,529
固定負債		
長期借入金	2,692,284	2,389,452
退職給付に係る負債	23,812	21,261
資産除去債務	209,363	210,880
その他	366,487	453,004
固定負債合計	3,291,947	3,074,598
負債合計	5,981,438	5,633,128
純資産の部		
株主資本		
資本金	496,544	496,544
資本剰余金	486,544	486,544
利益剰余金	2,049,009	2,367,639
株主資本合計	3,032,097	3,350,727
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,520	12,061
その他の包括利益累計額合計	5,520	12,061
純資産合計	3,037,618	3,362,789
負債純資産合計	9,019,056	8,995,917

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	7,186,247	7,754,583
売上原価	5,906,308	6,490,495
売上総利益	1,279,938	1,264,088
販売費及び一般管理費	755,646	714,246
営業利益	524,292	549,842
営業外収益		
受取利息	73	89
受取配当金	1,117	1,229
補助金収入	23,795	63,808
その他	26,225	43,209
営業外収益合計	51,211	108,336
営業外費用		
支払利息	27,888	25,808
その他	3,893	5,871
営業外費用合計	31,781	31,679
経常利益	543,722	626,499
特別損失		
固定資産除売却損	166	-
子会社株式売却損	864	-
関係会社出資金評価損	-	2,176
特別損失合計	1,031	2,176
税金等調整前四半期純利益	542,691	624,322
法人税等	223,962	217,385
四半期純利益	318,728	406,937
親会社株主に帰属する四半期純利益	318,728	406,937

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	318,728	406,937
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,048	6,541
その他の包括利益合計	3,048	6,541
四半期包括利益	321,776	413,479
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	321,776	413,479

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。